

日本の国土の面積は全世界のわずか0.28%しかない
のにも関わらず、全世界で起こったマグニチュード6以上の
地震の20.5%が日本で起こった地震（国土技術研究センター発表）とのことです。



6月18日の朝のこと、大阪府北部を震源とした最大震度6弱の地震が起きました。

その時僕はひとりで豊中の自宅にいましたが、とても怖くて不安でした。(>_<)

平成7年1月の阪神淡路大震災の際は、今回よりずっと大きく揺れましたし、揺れも長く続きました。

揺れている間、僕はまだ1歳に満たない娘に覆いかぶさって必死に地震をやり過ごしました。

大きな揺れが収まった後も、この子たちを守らなければとずっと気が張っていたように思います。

その時も不安だったはずですが、今回の地震の方がずっと不安に感じました。

それは、ひとりぼっちだったからだと思うのです。



『人は自分に価値があると思えたときに勇気を持てる。』とは心理学者アドラー博士の言葉です。

家族を助けたいと思っている僕が、逆に家族の存在のおかげで元気づけられていたのだと思いました。

人間は所詮感情の動物。同じことをするのでも、その気持ちの持ちようですぐぐん変わります。

経営学者ピータードラッカー氏の「マネジメント」という本に石工の話があります。

ある建築現場の石工に、何をしているのかと尋ねたところ、

一人目の男は『これで食べている』と答えた。

二人目は手を休めずに『腕のいい石工の仕事をしている』と答えた。

三人目は目を輝かせて『国で一番の教会を建てている』と答えた。

『マネジメント』（ダイヤモンド社刊）より



一人目の石工は給料をもらう為、二人目の石工は自分の腕を磨く為、三人目の石工は
皆の心の拠り所となる、国で一番の教会を建てる為と、三者三様の目的があったわけです。

石工という仕事は、とんでもなく重労働で辛い仕事。

もし現代のように、いろんな就職口が引く手あまたの時代であったとしたら、三人の石工のうち
そのうちに仕事を投げ出してしまうのは誰でしょう？一番よく働いてくれるのは誰でしょう？

「管理監督するのなら誰でもできる。『やる気』を引き出すのが指導者の役割。」と言うのは、弱小チームを
育てて箱根駅伝4連覇を果たした青山学院大学陸上競技部監督の原晋（はら すすむ）さんです。

ビジネスマン出身の原監督はその著作の中で、箱根駅伝もビジネスも一緒だと書いています。

自分の仕事に価値を認識すると、それは「モチベーション」につながり「やる気」も上がると思います。

この原稿は地震が発生してから3日後の21日に書いていますが、余震も落ち着いてきたよう
に思います。今回、僕自身の地震の怖さの実感から「モチベーション」について書かせて
いただきましたが、もう一つとっても大事なことがあります。それは言うまでもなく「安全」。
今回の地震のような不測の事態があった場合は、避難の仕方や緊急連絡先等、改めて
職場で考える機会にしてほしいと思います。「安全」に勝る業務はありませんからね。
被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

エレベーター

止まった！
地震か？

違うな

違うな

アヴニール労務事務所

未来は変えられる！ **avenir**